

未来イノベーション成長株ファンド

月次レポート

2019年  
01月31日現在

追加型投信／内外／株式

■基準価額および純資産総額の推移



・基準価額は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。  
・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。

■基準価額および純資産総額

基準価額(1万口当たり)	8,360円
前月末比	+506円
純資産総額	686.65億円

■分配金実績(1万口当たり、税引前)

決算期	決算日	分配金
第1期	2018/06/20	0円
—	—	—
—	—	—
—	—	—
—	—	—
—	—	—
設定来累計		0円

・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	6.4%	-7.1%	-18.0%	—	—	-16.4%

・実際のファンドでは、課税条件によってお客さまごとの騰落率は異なります。  
また、換金時の費用・税金等は考慮していません。  
・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。  
・分配金実績がある場合は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

■資産構成

	比率
実質国内株式	81.9%
内 現物	81.9%
内 先物	0.0%
実質外国株式	16.1%
内 現物	16.1%
内 先物	0.0%
コールローン他	2.0%

■組入上位10カ国・地域

国・地域	比率
1 日本	81.9%
2 アメリカ	11.4%
3 香港	1.9%
4 スイス	0.8%
5 ニュージーランド	0.8%
6 イギリス	0.7%
7 フランス	0.4%
8 —	—
9 —	—
10 —	—

■テーマ別構成比

テーマ	比率
1 情報通信	43.9%
2 環境	23.7%
3 ヘルスケア	22.7%
4 新素材	7.7%

■組入上位10業種

業種	比率
1 ヘルスケア	22.8%
2 情報技術	21.3%
3 一般消費財・サービス	15.1%
4 資本財・サービス	12.1%
5 素材	11.3%
6 コミュニケーション・サービス	8.1%
7 不動産	3.5%
8 公益事業	1.7%
9 生活必需品	1.4%
10 エネルギー	0.7%

■組入上位10銘柄

組入銘柄数: 55(国内:40、外国:15)

銘柄	国・地域	業種	テーマ	比率
1 朝日インテック	日本	ヘルスケア	ヘルスケア	5.5%
2 トヨタ自動車	日本	一般消費財・サービス	環境	3.6%
3 三井不動産	日本	不動産	環境	3.5%
4 任天堂	日本	コミュニケーション・サービス	情報通信	3.3%
5 アンリツ	日本	情報技術	情報通信	3.3%
6 テルモ	日本	ヘルスケア	ヘルスケア	3.1%
7 信越化学工業	日本	素材	新素材	3.0%
8 日本ユニシス	日本	情報技術	情報通信	3.0%
9 ソニー	日本	一般消費財・サービス	情報通信	2.5%
10 エムスリー	日本	ヘルスケア	情報通信	2.5%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。  
・コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。・国・地域は原則、主要取引所所在地で分類しています。・業種は、GICS(世界産業分類基準)で分類しています。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

**■運用担当者コメント**
**【市況動向】**

・今月の国内株式市況は、月初こそ米国の一部経済指標の悪化や米国スマートフォンメーカーが業績見通しを下方修正したことなどが嫌気されて下落したものの、その後中旬にかけては、米国の雇用統計が景気の堅調さを示すものだったことや中国の景気対策への期待が高まったと見られることなどから上昇しました。下旬は、国際通貨基金(IMF)が世界経済成長率見通しを下方修正したことなどが懸念された一方、米連邦公開市場委員会(FOMC)で利上げを一時停止する考えが示されたことなどが好感され、一進一退の動きとなりました。月間を通してみると、東証株価指数(TOPIX)は上昇しました。

・海外の主要投資先である米国株式市況は、NYダウ、NASDAQ総合指数ともに上昇しました(計算期間は2018年12月27日から2019年1月30日)。

**【運用状況(分配金実績がある場合、基準価額の騰落は分配金再投資ベース)】**

・基準価額は上昇となりました。プラスに寄与した銘柄は「アンリツ」です。一方で「資生堂」などがマイナスに影響しました。

・今月の主な投資行動は、「東海旅客鉄道」などを買い付けた一方で、「ドンキホーテホールディングス」などを売却しました。

**【今後の運用方針】**

・当面の国内株式は、戻りをためず動きを想定しています。2019年の世界経済の焦点である米国・中国の景気動向ですが、減税効果の弱まる米国は米連邦準備制度理事会(FRB)が金利正常化を急がず柔軟な政策対応で景気悪化を回避できるかがポイントと考えていましたが、上記の通りFRBは追加利上げや保有資産の圧縮についてこれまでよりも慎重な姿勢を示したものと捉えています。また、対米摩擦が続く中国は、当局の減税やインフラ支援策の効果で年後半に底固めが期待され、さらに米中通商交渉が前進する可能性も一時と比べれば高まっているように思われます。これらのことを踏まえ、独自の成長要因を持ち着実に利益成長を遂げる確度が高いと判断した銘柄や、中小型銘柄などに引き続き注目していきます。

・日本株式については、(1)高い環境・安全・燃費技術に関わる自動車・電子部品関連銘柄、(2)インターネットを活用したサービスやデータ量拡大に対応するための情報通信関連銘柄、(3)バイオ・医療機器を含むヘルスケア関連銘柄などに注目しています。外国株式についても、情報通信関連銘柄やヘルスケア関連銘柄などに注目しています。(運用担当者:内田)

・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

**■GICS(世界産業分類基準)について**

・Global Industry Classification Standard("GICS")は、MSCI Inc.とS&P(Standard & Poor's)が開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。

**■組入上位10銘柄コメント**

銘柄	銘柄概要
1 朝日インテック	狭心症や心筋梗塞の治療に使われるPTCA(経皮的冠動脈形成術)ガイドワイヤーが主力製品。素材から製品までの一貫生産体制が強み。日欧では高シェアを獲得。今後は直販化を進める米国でのシェア獲得に期待。
2 トヨタ自動車	世界大手自動車メーカー。排ガス規制、燃費向上に貢献するハイブリッドカーで高い競争力を持つ。未来のモビリティ社会の実現に向け、自動運転に関する技術での協業、新しいモビリティサービスの構築、低炭素社会の実現に向け他社との提携などを加速。
3 三井不動産	「東京ミッドタウン」などを保有する総合不動産大手。スマートシティへの取組みに注力し、都市と自然の共生を企図。
4 任天堂	家庭用ゲーム機やソフトの大手メーカー。「Nintendo Switch」では、据え置きと持ち運びの両方で楽しめる、新しい遊び方を提供。今後の更なる販売増加や有料オンラインサービス、注力分野であるスマートフォン向けゲームなど、収益獲得の多様化に期待。
5 アンリツ	通信計測器メーカー。5Gの導入が見込まれており、今後数年にわたる計測器需要の拡大に期待。また、IoTの普及に伴い、既存客層の通信事業者や携帯端末メーカーからの需要増加に加え、家電メーカーや車載電装品メーカーに客層が拡大すると期待。
6 テルモ	国内外で医薬品や医療用機器の製造及び販売を行う。カテーテルなど心臓血管領域に強み。国内外にイノベーション拠点を展開するなど、自社開発に加えて「オープン・イノベーション」を活用した製品開発を推進。他にも、次世代脳動脈瘤治療機器の市場拡大に期待。
7 信越化学工業	化学メーカー大手。半導体シリコン事業の主力製品であるシリコンウエハは、スマートフォンなどのデバイス向け以外にもデータセンター、車載、産業ロボットなどの社会インフラとして使用されるようになっており、基盤材料として中長期的な成長に期待。
8 日本ユニシス	ソフトウェアを開発、販売するシステムインテグレーター。IoTの発展にあわせ様々なソリューションを展開。様々な決済関連サービス等にも期待。
9 ソニー	エレクトロニクス事業等のハードウェアに加え、コンテンツサービス等のソフトウェアでの業績拡大を評価。スマホ用カメラから車載用カメラへの拡大が期待されるCMOSイメージセンサーに強み。ソフトウェアではゲームや音楽などコンテンツ配信による継続的な収益拡大に期待。
10 エムスリー	医療従事者向け情報サイト「m3.com」を運営。インターネットを活用した独自のビジネスモデルを展開し、医薬情報担当者(MR)による営業体制を変革。また、AIを活用し、診断システムをクラウドで利用できる「Doc+AI(ドクエイ)」にも期待。

・上記は個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。各社ホームページ、その他三菱UFJ国際投信が信頼できると判断した情報に基づき、作成しています。

# 未来イノベーション成長株ファンド

追加型投信／内外／株式

## ファンドの目的・特色

### ■ファンドの目的

日本を含む世界の株式を主要投資対象とし、主として中長期的な値上がり益の獲得をめざします。

### ■ファンドの特色

**特色1 次の時代を創るイノベーション※を捉えることをめざします。**

- ・次の時代を創るイノベーションを見極め、魅力ある投資テーマを選定します。
- ・投資テーマに基づき、日本を含む世界の未来を牽引する企業へ積極的に投資することで、将来の高い成長を享受し、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。

※当ファンドにおいては、技術の革新にとどまらず、これまでとは違った新たな考え方、仕組み等を取り入れて、新たな価値を生み出すことをいいます。

**特色2 日本株を中心に世界の株式に投資を行います。**

- ・ボトムアップ・アプローチによりテーマや産業の分散を意識しながら競争力のある企業を選定します。
- ・日本の企業を中心に、日本国内に加えグローバルなイノベーションを捉えられる企業に投資を行います。
- ・組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。

**特色3 年1回の決算時(6月20日(休業日の場合は翌営業日))に分配金額を決定します。**

- ・分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

## 投資リスク

### ■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

<b>価格変動リスク</b>	株式の価格は、株式市場全体の動向のほか、発行企業の業績や業績に対する市場の見通しなどの影響を受けて変動します。組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。
<b>為替変動リスク</b>	組入外貨建資産については、為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。為替ヘッジを行う場合で円金利がヘッジ対象通貨建の金利より低いときには、これらの金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上のヘッジコストとなる場合があります。
<b>信用リスク</b>	株式の発行企業の経営、財務状況が悪化したり、市場においてその懸念が高まった場合には、株式の価格が下落すること、配当金が減額あるいは支払いが停止されること、倒産等によりその価値がなくなること等があります。
<b>流動性リスク</b>	株式を売買しようとする際に、その株式の取引量が十分でない場合や規制等により取引が制限されている場合には、売買が成立しなかったり、十分な数量の売買が出来なかったり、ファンドの売買自体によって市場価格が動き、結果として不利な価格での取引となる場合があります。

上記は主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。

### ■その他の留意点

・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。

・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。

投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

**ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。**

# 未来イノベーション成長株ファンド

## 追加型投信／内外／株式

### 手続・手数料等

#### ■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までには販売会社がお受け付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受け付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。また、信託金の限度額に達しない場合でも、ファンドの運用規模・運用効率等を勘案し、市況動向や資金流入の動向等に応じて、購入のお申込みの受付を中止することがあります。
信託期間	2028年6月20日まで(2018年3月27日設定)
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年6月20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時に分配金額を決定します。(分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。) 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

#### ■ファンドの費用

##### お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 購入価額に対して、**上限3.24%(税抜 3.00%)**(販売会社が定めます)  
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)

信託財産留保額 ありません。

##### お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬) 日々の純資産総額に対して、**年率1.6632%(税抜 年率1.5400%)**をかけた額

その他の費用・手数料 監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。  
※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、毎計算期間の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。  
※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

#### 本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

##### ●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会: 一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufj.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

##### ●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

**ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。**

## 販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

ファンド名称: 未来イノベーション成長株ファンド

商号	登録番号等		日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
株式会社三菱UFJ銀行(委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社)(イン ターネットトレードのみ)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○